

内水面支場 News !

霞ヶ浦・北浦において ギンガメアジを複数回確認

■ 霞ヶ浦・北浦でギンガメアジが相次いで見つかっています。



写真左 北浦において採集されたギンガメアジ

(令和4年 9月27日 銚田市江川地先の北浦 トロール；標準体長 87.6 mm；内水面支場に保管)

写真右 霞ヶ浦において採集されたギンガメアジ

(令和4年10月22日 阿見町大室地先の霞ヶ浦 トロール；標準体長 82.6 mm；内水面支場に保管)

ギンガメアジ *Caranx sexfasciatus* はスズキ目アジ科に属し、60 cmほどに成長する海水魚です。成魚は主にサンゴ礁域で生活しますが、幼魚は内湾や河口域に多く生息します。

そんなギンガメアジが、令和4年度中に霞ヶ浦・北浦で複数回確認されています。本種は霞ヶ浦・北浦が汽水湖であった1950～60年代には、たまに見られ、麻生地区などでは「ピーピーアジ」と呼ばれていたようです。しかしながら、それ以降の年代においては、確認事例が少ない状況が続いていました。

なお、本種は低水温に弱いため、これから冬にかけて水温が大きく下がる霞ヶ浦・北浦では生残できず、確認数が減っていくと考えられます。

(内水面支場 山崎和哉)